

令和5年度 第6回恵那市社会教育委員会議事録

開催日時：令和6年3月21日（木）

午後3時00分～4時50分

開催場所：恵那市役所西庁舎 災害対策室A・B

会議次第

1. 開会あいさつ
2. 社会教育委員長あいさつ
3. 議題
 - (1) 令和5年度第5回社会教育委員会会議録の承認について
 - (2) 令和6年度調査研究テーマの検討について
 - (3) 地域学校協働活動答申の周知と活用について
4. その他
5. 閉会あいさつ

次回日程

日時：令和6年5月31日（金） 午後1時30分～

場所：恵那市役所西庁舎3階 災害対策室A・B

・出席者の数：社会教育委員14人中11人、事務局4人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	三学のまち推進委員会委員	出席
2	副委員長	山田 恵市	文化振興会	出席
3	委員	山内 正一	学識経験者	出席

4	委員	高草 環	図書館サポーターえな	欠席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	出席
9	委員	百松 義朗	NPOまちづくり団体	欠席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	欠席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	山口 清季	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	吉村 良	校長会代表（大井小学校長）	出席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	欠席
2	課長	柄澤 史枝	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	出席
5	社会教育指導員	三宅 勝義	〃	出席
6	社会教育指導員	丸山 真理子	〃	欠席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃	欠席

1. 開会あいさつ

（事務局）皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。今回は、高草委員、百松委員、田口委員からご欠席の連絡をいただいています。それでは、資料の確認をさせていただきます。会議次第が表紙のホッチキス止め資料、地域学校協働活動答申書の別紙資料、令和5年度地域学校協働活動の取り組み冊子、他関係資料を配布しています。

それでは、開会のあいさつを柄澤生涯学習課長が申し上げます。

（生涯学習課長）年度末お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今年度も残り10日となりました。今年度は皆様に地域学校協働活動について慎重な審議をいただき、答申書を作成することができました。残りわずかですが、しっかり周知をし、次年度につながっていくようにしていきたいと思っております。来年度から新しく始まる事業もあり、その中でも子育て支援事業を恵那市として力を入れていくということで、たくさんのメニューが用意されています。今までのとおりでいいということだけでなく、市独自の新しい取り組みも必要だと思っておりますので、皆様のご意見をいただけますようお願いいたします。今日は令和6年度の調査研究テーマの検討も行うことになっておりますので、社会教育の取り組みを強化するため、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

3. 社会教育委員長あいさつ

(委員長) こんにちは。昨晚雪が降り、今朝うっすら雪が積もっており、北国の春かなと思ひながら、寒さに震えながら、外へ出るのはゆっくりと。普段より寒さが遅くまで続くなと思ひています。早く暖かい春になってもらいたいと願ひながら今日参りました。

今年度まで2年間進めてきました地域学校協働活動の推進の仕方やQ&Aですが、やはり話し合いをしていくとどんどんいいものが出てくると思ひながら、去年1年間皆さんと一緒に答申案を作ってきました。話し合いの中の記録を読み返すと、自分たちはすごいことを話していたんだとよくわかりました。話し合いを積み重ねることによって、よりよいものができると思ひました。皆さんがご苦勞をかけてやってくれたおかげで、恵那市教育委員会も通りまして、来年度から実施ということで事務局を中心に周知を図ってもらっており、ありがたいと感じています。私たちは恵那市全体の社会教育に関わって推進していく立場です。地域のことだけでなく、こうすると恵那市の社会教育、生涯学習が充実、発展してくるということを考えてご意見いただきたいと思ひます。来年度から新しいテーマで進んでいくと思ひますが、今までやってきたことは、これからも実践しながら改善しながら、2本立てになるかもしれないと思ひますので、よろしくお願ひします。皆さんのおかげでいい答申書ができましたので、これからも改善を図っていきたく思ひますのでよろしくお願ひします。

(事務局) ありがとうございます。委員長からもお話がありましたが、昨年度より教育委員会からの諮問を受け、地域学校協働活動推進についての答申を作っていたいただき、前回教育長に手渡しました。その後の経過を少しお伝えします。1月31日に教育委員会定例会があり、その場で議題として答申がかけられました。教育委員皆様の承認を得て議決されたことを報告します。2月28日、塾長会にて答申書とQ&Aなどの付属資料をお配りし周知しました。3月1日、校長会でも配布と説明をさせていただきました。3月8日、東濃5市の社会教育委員の代表や担当職員が参加する東濃地区社会教育振興協議会があり、その場でも説明させていただきました。3月13日、地域学校協働活動推進員の集まる会にて配布、報告をさせていただきました。3月15日、地域自治区会長会議では、地域自治区会長や振興事務所長が出席しており、配布、報告させていただきました。

委員長からもお話がありましたが、今日の資料に、『答申「恵那市における地域学校協働活動の推進について」への意見・思い』を付けました。これは、第5回恵那市社会教育委員会議で皆様からいただいた意見を抜粋したものです。委員長も言われましたが、作っていく中でだんだんと理解が深まってご意見もたくさんいただいて、それが答申へつながったことが分かる皆様の思いが詰まった資料となります。読みながら振り返っていただき、こうやって作ってきたんだと確認していただけたらと思ひ、配らせていただきました。長くなりましたが、これより議題に入っていきたいと思ひます。委員長お願ひします。

(委員) 『答申「恵那市における地域学校協働活動の推進について」への意見・思い』の2枚目、「中野方の渡辺さん」とありますが、今、武並にいるので、修正お願ひしま

す。言葉足らずでごめんなさい。

(事務局) 塾長の渡邊さんですね。議事録を修正します。他はよろしかったでしょうか。

(委員長) Q&Aで増えたところの説明をお願いします。

(事務局) 「資料1. 地域学校協働活動Q&A」4ページのQ15とA15は、質問の追加要請があり事務局で作りましたので、本日も確認をお願いしたいと思います。内容は、「活動経費はどのような物品等に使うことができますか？また使えないものはありますか？」という経費の具体的な使い方についての質問です。回答として、「令和6年3月21日現在で、各地域の地域学校協働活動経費は、消耗品費・印刷製本費・食糧費・保険料の4費目です。この他の費目には使うことができません。配分額は各年度の予算額により変動する場合があります。活動経費は市予算から執行しています。発注や支払いは、各地域の事務局(各振興室、各振興事務所)が行いますので、あらかじめ相談しながら、有効に活用してください。」とし、予想される主な経費を載せています。市の予算を使い、使い方は限られており、振興室・振興事務所へ事前に相談することが大事だと書かせてもらいました。今後もQ&Aの更新が予想されますので、履歴として残していきたいと思います。これについて、皆様からご意見をいただいたり、修正したりして、社会教育委員会の確認をいただきたいと思います。

(委員長) 使い方について大まかな方向が分かりました。公費なので誤って使わないようにしたいところです。答申書は変えられませんが、Q&Aは増やしていけますので、何かあれば事務局に相談していきたいと思います。やればやるほど疑問が出てくると思います。今は、運営協議会と地域学校協働活動の関わりについて課題となっていますが、学校教育担当でやっていただけるといいと思います。よろしいでしょうか。

(委員) Q15をQ13の下に入れ替えることは可能でしょうか。

(事務局) 内容が行政のことで関連していますので、連続すると読みやすいと思います。並べ替えすることも履歴に書いて記録に残すようにします。よろしいでしょうか。

(委員長) はい。ありがとうございます。

3. 議題

(1) 令和5年度第5回社会教育委員会会議録の承認について

(委員長) 誤字、修正あれば、事務局へ伝えてください。

(2) 令和6年度調査研究テーマの検討について

(委員長) 社会教育は幅が広く一度にはできません。今、困っていること、もう少し深めたいことなどあればやっていきたいと思います。事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料4ページ、議題2について、【資料に沿って説明】。持ち寄っていただいた意見を出していただき、話し合いをお願いします。

(委員長) 放課後子ども教室の資料についても説明をお願いします。

(事務局) 生涯学習課所管の「放課後子ども教室」と子育て支援課所管の「放課後児童クラブ(学童保育)」の違いがはっきり見えてこないという意見がありました。今日のご欠席ですが、田口委員より両事業の違いがわかる資料を配布するといいいのではないかと助言いた

いただきましたので、配布させていただきました。名前が似ておりますが、違いを知っていただけたらと思い資料を配らせていただきます。【資料に沿って説明】

(委員長) 初めて見る人は2つあってわからない、保育園と幼稚園の違いのような、毎日なのか月2回なのか、福祉と教育ということで、社会教育委員会で違いがわからないということだったので、田口さんから要望があり事務局に資料を作っていただきました。私たちが理解していることも大事なことです。

研究テーマの検討について宿題になっていました。過去には、公民館長でなく塾長となったことで、塾長の仕事がわからないということで提言しました。その後、地域学校協働活動が始まり、何をするのかということで、一緒に作ってきました。今、現実にこんなことに困っていることなど、教えていただきたいと思います。順番にお願いします。

(委員) まとまりませんが、社会教育関係団体とはどういうものかわからないので、整理したいです。少子化の課題と活性化のお手伝いなどできると、地域学校協働活動にもつながるのではないのでしょうか。もうひとつ、各コミセンの講座で学んだことを活かすと地域学校協働活動につながるかなと思います。

(委員長) 三学の精神、学んで活かすということですね。

(委員) 少子高齢化の中で、三学戒、少壮老、子どもから大人までの学びを整理するのが個々の役割ではないか。具体的には地域学校協働活動をどう見届けるか、これから展開される中で、皆さん取り組みをよりよくできるような、その最終的なところが学びになると思います。漠然としていて申し訳ありません。

(委員) 軸は人育ち、人育て、学びあいに置き、地域の活性化につながると思います。今までやってきたことの検証、改善もやっていかななくてはなりません。でも年に6回の会議でやれることを具体的に絞らないとできないと思います。そんな中でひとつ、学童の職員が足りない状況で、子どもたちが行き詰っていくなと思っています。長島の学童職員が5、6人いっぺんに辞めてしまったことがありましたが、そこには職員の困り感があったと思います。地域学校協働活動は学校の中でやってきたが、学校の外、学童や子育てしていくのに、生まれてから三つ子の魂と言われるのにも関わらず、今、子育てが人任せになっているように感じます。就労するには大事なことだし、受け皿として作っていかなければいけないし、みんなで協力して育てていかなければいけないというひとつの筋はあるけれど、あまりにも器が充実してくると容易に預けてしまわないのでしょうか。乳幼児期は親の愛情を捨ててほしくないです。子育て支援課の職員にも何回か話したことがありますが、充実するには並大抵なことではないけれど、子どもが育っていく上では何百万円も何千万円もかかります。それは行政とか施設も大事だけれど、企業も、紙おむつにしてもミルクにしても、企業の協力が必要だと思います。先日、美容院トマトの特集を見ました。独自の託児所を設け、受け入れ態勢を作り、産休後辞めずに復帰する。母親が復帰しても子どもは近くに居られる。こういう事業所が出てきてうれしいなと思いました。そういう事業所の支援をしてほしいなと思います。

これは大きなことで、小さなことで言うと、学童の説明があったように、職員不足で預かってもらいたいけれど、そうもできず、そろばんや塾、水泳などに通って預かり先を探さなければならないという声も聞きます。子が育つには、親の支援、子の支援が必要。学童から

職員がいないと声をかけてもらう苦しさを感じています。地域学校協働活動で学校の中がよくなっても、学校から帰っていった後に過ごす場所の現実を知ってお手伝いできるとういかなと思います。

(委員) 家庭教育は幅が広いと思いますが、具体的に何をやるか、今、地元の行事とかを経験していないと思います。昔、がんどうちというものがありました。文化の継承と言いますが、しめ縄づくりとか昔からやっていたようなことを継承していけたらと思います。コミュニティセンターで講座をやっていて、私もひとつ受講していますが難しいです。地元にはかない文化の継承をしていただきたい。家庭教育支援はこれも含めて、進捗管理は今後も順番にやっていく必要があると思います。

(委員長) 地元文化の継承は、どこも必死にやっていますが、伝える人がいなくなる、また、受ける人もいない。両方がいないので悩んでいるところです。

(委員) 孫が小学生なので岐阜県PTAを読んでいます勉強になります。我々の年代で叱られたことを孫に言おうにも、今の親の叱り方や褒め方とは全然違ってきていて、どうなるのかなと思っています。夫婦で働いて、子どもを学童に預けてということも今後心配です。

恵那市の警察署長が代わり話を聞きました。横断歩道を渡るときに、車が止まると、「ありがとうございます」という子どもが多くなってきているということです。運転する方としても、急いでいる中、止まって子どもを先に行かせてやった時に「ありがとう」と言われると気持ちよくなります。横断歩道での子どもの事故も少なくなっているそうです。学校で教育しているのか、親が教育しているのかわかりませんが、お礼を言うことはいいことだなと、そんな話を恵那署長に聞きました。もうひとつ、武並で大きい事故があり、ひとり死亡されました。ウインカーを出して右折しようとする前に出すぎていると、後ろからぶつけられて前に出て対向車とぶつかる危険性があるので気を付けたいです。

三学では、武並に歴史文化に詳しい人がいて、私も中山道のかたりべを勉強しましたが、難しい字が読めません。武並小学校で中山道を子どもたちと一緒に歩き、年をとってくると若い人に引き継いでいきたいと頑張っています。大湫の権現山の話なども、私たちが聞いてきたことと、今の子どもたちに伝わっていることの内容が違っている。子どもの話を聞いて「権現山に鬼はいたかな？」と思った。私たちも勉強して、子どもに正しいことを教えていかなければいけない。

それから、資格指導員は、年齢制限ありませんか？スポーツ少年団で野球をやっていますが、土日大会になると、保護者がついていくのが大変で辞めることがあるようです。団員が減り、武並は中野方と一緒にやるようになったそうです。親も一週間働いて土日はゆっくりしたいという思いもあり、今後スポーツ少年団もどうなるかなと思っています。地域の困っていることを共有していきたいと思います。

あと、うちの部落は71軒ありますが、1割強結婚していません。独身の子の親に聞くと、「結婚してほしいけれど、給料が少なく、結婚をして子どもを育てる生活能力がない」と言っていました。これも心配しています。

(委員) 来年の研究テーマですが、今年度、地域学校協働活動のまとめができました。地域ごとに恵那は特性が違いますが、骨格ができたので、どう生かしているか持ち寄って、工夫を共有しあって、自分の地域でやれることを出し合うとういかなと思います。

先ほどから話題になっている学童ですが、現場では、他の市町と比べて恵那の学童は人口密度が高いです。前回の法改正で高学年も受け入れることになりました。部屋の面積に対する人数がありますが、大井小や長島小でいうと、ほぼ無視しています。ぎゅうぎゅう詰めになっている状態で、けがやトラブルが多いです。いろいろな要因があり、共働きで見てほしいという家庭もあれば、保護者も祖父母も家にいる家庭もあります。一方、学童の職員はとても熱心で、子どもの誕生日に合わせた企画をすることがあります。大井は第3学童まであり、いろいろな問題が出てきます。人を増やすのか、ゆとりを持たせるのか、場所を増やすのか、よい対策を立てていかないと、問題もあるので何とかしたいですが、具体的な策はなかなかありません。学童の職員さんから相談を受けたので、「いろんな地域を見てこれるといいですね」とお伝えしました。ある市はかなり制限を設けていて、500人ほどの学校なのに20人くらいしか学童に入っていないというところもあります。良い悪いは別として、安全は担保できている、空間は担保できている、ただ、入りたい人が入っていないだろうなとは思いますが。事故が起きてしまっただけは何ともならないので、という話もしました。職員さんたちはボランティア精神に溢れ、子どもたちのためにとやってくれているので、そこを大事にしながら整備していかなければならないと、校長として見ていて思います。

(委員長) 丁寧にやればやるほど入りたいし、そうすると目が届かないし、ジレンマがあるのではないかと思います。

(委員) 少子化というけれど、集団下校を見るとたくさんいる。交通指導の人も横断歩道で助けていただいている。上級生は注意せず、縁石を歩いている子もいる。私たち大人が注意すればいいかもしれないけれど、そのまま通り過ぎてしまう。学校でも指導してもらえたらありがたい。ここで話しても、ここだけで終わるといえるか、みんなに伝わるようにできるといいなと思います。学校の先生と話がしたくても、ふらっと行って話す雰囲気ではなく、スポーツ少年団に来ている子たちから話を聞く感じだと思います。スポ少の人数が少なくなると話が出ましたが、野球連盟に加入してやっていると、土日に保護者が一緒に行かなければならないようですが、大井のスポ少は違ってそこまで親がついてくることはありません。

(委員) 白川町在住ですが、人口7000人、今年度生まれた子は10名、保育園6か所、小学校5校、中学校4校ということで、3年後には小中一貫校が計画されている状況です。恵那市は住みたいまち1番ということでいいなと感じますが、文化の継承ということで、今、変えていくことと変えてはいけないことがあって、少し無理してでも継承していくことが文化にはあるかなと思います。地元でも杵振り踊りと夏祭りはどんな状況でも続けていこうとしています。子どもの頃に文化との触れ合いがあって、離れてもまた戻ってくる、そんなものを作っていく必要があると思いました。恵那市は歌舞伎などもありますので、そこを仕掛けたらいいかと思います。

もうひとつ、私は倫理法人会で勉強させてもらっていますが、そこでも子どもたちが履物を揃えるとか、挨拶とか、いろいろ習っていますが、私の家では孫たちの履物がバラバラで、私が帰ったら黙って揃える、朝出かけるときも揃えるようにしています。自然と子どももこれはいけないと思って。逆に「揃えなさい」と言うと、反発してやらなくなるので、親が黙ってやり続けると、自然と子どももやるようになったりとか、その家族だけでなく、共有していくことも大事かと思います。私は建設業をやっていますが、子どもさんたちも各企業に

行って体験させてもらって、地元にはいろんな業種がありますので帰ってきた時に地域を盛り上げていってもらえるようなことが大切かなと思いました。

(委員長)「率先垂範をしながら背中で見せる」と言いますが、大人がやらなければいけないかもしれません。

(委員)学童に通う孫を祖母が迎えに行くと、「おばあちゃんがいるなら辞めてくれ」と言われて放課後孫を見ている友人がいますが、制約されて大変だと話を聞きました。母子家庭で「お金がないから学童に入れない」という家庭もあるという。また、こども園では、節分などで「(近くの)〇〇山から鬼が出てくる」と子どもに話していることが多いけれど、もともとの言い伝えが変わってしまう、と先ほどの話を聞いてドキッとしました。大人がわかっていることが大事だと思います。

(委員)そんな伝承はないけれど、子どもも知っているような身近な山から鬼が来るよ、と作って伝えてしまっています。

(委員)毎年難しいですが、市の重点事業、あるいは社会教育、生涯学習関連事業で進めたいこと、かつ地域学校協働活動と関わりがあるもの、有償ボランティアか無償ボランティアかいろいろあると思いますが、その中で、文化的活動の継承、あるいはスポーツの外部指導者等々、どのように運営されているか、将来的に本当にできるのか？私たちが調査研究して検証する年度にしてはどうかなと思います。詳しいことはそれぞれで違います。以上です。

(委員長)文化活動やスポーツ活動をどうしていくかを見に行かせてもらうということですね。大きく2つ、学童と中学生の地域学校協働活動ですね。乳幼児は今回出てきませんでしたので。

(事務局)コミュニティセンターを運営する塾長会と主事会の事務局をやっております、年に10回くらい集まり実践交流や連絡事項の共有をやります。今、塾長は困っています。今に始まったことではなく、平成28年あたりから振興事務所とコミセンが同居しまして、仕事の分担に迷いがあり、令和2年度に社会教育委員会で塾長の仕事の在り方ということで出されました。出されたのはいいのですが、改善されたとはいえない現状で、大変な仕事を抱えている塾長もいるし、そうでもない地域もあるし。何とかしてやりたいという思いで塾長会を開催しているわけです。一つの要因として、地域づくりを主管する首長部局と、コミュニティセンターを主管する生涯学習課。その2系統で指示が出るわけです。ところが現場は同居しているので、一緒にやれと。一緒にやると仕事が増える。いろんな実態があり困っている。令和2年度に社会教育委員会が提言しているので、その視点から見て、見届けて検証していただき、方向を示していただきたいというお願いです。

資料に「社会教育委員会の職務」と書いてあります。社会教育法の17条2に、「社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。」3「市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。」とあります。問題があるところを示していただけたら現場の塾長はかなり楽になると思います。ただ、地域によってイベントも実態も違うので画一的にできないのが難しいところです。市民講座や市民三学委員会という共通項目はありますが、プラスαの部分地域によって全然違います。塾長と主事しかおりませんので、2人しかいません

ので、その中でやっていくための助言をしていただいたらどうかと思います。年6回のうち1回くらいは塾長会と一緒に話し合う会を持っていただけたら助かります。

(委員長) 地域の教育活動を塾長の役割として作りましたね。地域の実情があるので、プラスαがあり地域によって違いが出てきますね。

(事務局) 例えば岩村では、過去には新能は教育委員会総出で手伝っていましたが、縮小されて振興事務所が事務局となり、今塾長が事務をしています。それは塾長の仕事なのかということです。塾長の方へ仕事が回ってくる。振興事務所がサボっているわけではなく、WRCや山城サミット、発酵サミットが入ってきて地域対応は振興事務所なので、前からあった夏祭りのようなイベントがコミセンに来て、塾長がやらなくてはいけなくなっている状況です。

(委員) 地域学校協働活動は制度設計がほぼ未定のまま始まりましたが、塾長は市の条例であり、そして振興事務所長の権限のもとにやっている。岩村のように前からたくさんあったところは塾長に振られてきますね。前は職員が多くいましたが、職員数が減り、できる人がやってしまう。やったけど大変。という現象はわかりますが、地域によって格差が大きいですよね。

(事務局) 願わくはいつもでなくても、たまにその実態を見届けていただいて、アドバイスをいただけたらと思います。

(委員長) 実態を交流して知り合うということが大事ですね。地域のことなので、対策というメスを入れることは難しい。笠置でいうと、大きい行事は地域協議会の会長が中心となってやっています。事務処理は職員や塾長が手伝いますが、町の大事な行事の中心は地域協議会。それぞれ地域によって違うと思います。

(委員長) 塾長さんの話す場がないので、話を聞いて受け止めるのも社会教育委員会だと思いますので、地域学校協働活動の経過とともにやっていけたらと思います。地域の文化活動が中心で、他はダメという、地域から塾長さんが浮いてしまうので、地域の実情に合わせてということ。話を聞くというレベルになるかもしれませんが、入れていきましょう。来年は2つの方向で。学童やスポーツのことも内情を知らないなので、まず、学ぶということはどうでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。いただいた意見をまとめて、生涯学習課として重点を置いていきたいところや目指したいところもありますので、加味させていただいて、来年度第1回の時にテーマとそれに沿ったスケジュールを提案させていただきます。塾長との合同の会も入れられると思いますので検討させてください。

(委員長) 来年度最初の会に提案として出していただくということでお願いします。

(3) 地域学校協働活動答申の周知と活用について

(委員長) 最後になりますが、地域学校協働活動答申の周知と活用についてに移ります。

(事務局) 「見届け」という言葉もいただきましたが、来年度も社会教育委員会で継続してどのように活用されているか見ていきたいと思います。

(委員) 感触はどうでしたか？

(事務局) 3月にかけて、関係者や地域の方々に持ち帰っていただいて、本部会議などで出してもらおうと、質問など出てくるかもしれません。

(委員) また、何かわかったら教えてください。

(委員長) 校長会ではどうでしたか？

(委員) 恵那市出身ではない先生の割合が増えているのもあり、言葉で説明し、言葉で理解はしてもらっていますが、実感としてどうかと思うところはあります。その傾向は教頭会の方が強いと思います。教頭先生の方が市外からの人に助けてもらっていることが多いので。恵那市の地域の個性があって、地域学校協働活動にびっくりしている人や感心している人や懐疑的に見ている人や多様ですね。

(委員長) ありがとうございます。学校現場の様子をまたいろいろ教えてください。自分の孫が行っている学校の教頭先生とは連携を持っていますが、よそはわからないので。ということで、1番から3番まで議題が終わりました。

4. その他

(事務局) 【配布資料確認】

令和5年度第6回まで会議を持つことができました。委員の皆様には、年間の出席回数に応じ報酬と交通費をお支払いしますので、ご承知おきください。本年度の社会教育委員会が終わるわけですが、任期2年ということで皆様には来年度もお願いしたいと思います。任期がずれている田口委員と百松委員は任期満了となり、各団体に選出のお願いをします。来年度、新しい方なのか、引き続きなのか、お名前をいただき委嘱していきたいと思しますのでご承知おきください。恵那市の校長会からは1年の任期となりますので、吉村委員は任期満了ということになります。一言いただけたらと思います。

(委員) 本年度、ありがとうございました。

(事務局) 職員の人事異動の内示は明日になりますが、三宅指導員が今年度限りとなります。

(事務局) 1年間ありがとうございました。田んぼと畑をがんばりたいです。

5. 閉会あいさつ

(副委員長) 議題(3)に関わり、ここ数ヶ月、見たり聞いたり感じたりしたことをお話しして閉会のあいさつとさせていただきます。ひとつは、地域学校協働活動ですが、ボトムアップ型とミドルアップダウン型とトップダウン型があるとしますと、地域にすでにあって根付いているものをコーディネートして子どもたちに有意義にしていこうとスタートを切ったところは比較的順調に動いていると思いました。そこがクリアできると、地域にある団体から、朝の会の時間に体育館に集めてカルタの話を歴史文化と合わせてやりたいと話が出ました。学校は移動などで1時間目が遅れてしまうのですが、だけど、そういうところまでできている所もある。トップダウン型で一生懸命考えたものの内容は素晴らしいのですが、考えているうちに一学期が済んでしまう。二学期から始めようと思うと夏休みが入って始めにくい。やっぱり、小学校は発達段階があると思うので、いくらやりたいことがあっても、ボトムアップから始めていくといいなと思いました。2つ目、校長や塾長の意識ですが、校長が喜んでくれるところは、地域も喜んでいてと思います。校長が懐疑的という話もありましたが、夏休みや土日、授業時間にやることもあるので、管理職がコントロールしてもら

わないといけない。稲刈りは授業時間にやるので、担任の先生も外部講師に教えてもらいながら子どもと一緒に一生懸命やってほしいです。先生ぶらずに。見に行ってみると、カメラを持って立っていたりします。そういう姿勢について、校長先生は少し指導してほしいと思います。こういうところを管理職が話をしてくれている所は、地域の人も喜んで「また行こう」「がんばろう」となっていることが多いと聞こえてきました。4月からも、塾長さんも大変だと思いますが、ちょっと余裕をもって推進員と連携をとってもらえるところほうまくいくので、何とか校長会長、塾長を指導される事務局のお力添えをいただけるといいと思います。推進員には決定権がありませんので、そんなところを上手にやっている所が進んでいるように聞こえてきます。今日は本当にありがとうございました。

(事務局) 本日はご出席ありがとうございました。